

第40回諜報研究会（2021年11月27日）

米国のインテリジェンス傘下—双務主義と日本の対外情報活動

ウィリアムズ・ブラッド准教授

香港城市大学

アジア国際学科

はじめに

米国は、冷戦時代にアジア太平洋地域における地政学的な政策のもとで連絡役を演じ、色んな共同活動を行う目的で、日本の情報機関の設立に協力した。その他の情報協力手段は同じような役割を果たし、従属的同盟国として日本を米国のインテリジェンス傘下に置くことを目標にしていた。日本のインテリジェンス・コミュニティは主に双務主義という規範に従ったが、まれに日米情報機関や政治家の間で摩擦が起きた。

問題提起

インテリジェンスと日本

本書の主張

グラント・ストラテジーと規範

双務主義と日本の対外情報活動

日米インテリジェンス協力の慎重な始まり

双務主義を手段として利用する—KATOH 機関

タケマツ作戦

占領後の継続協力組織の設立—内閣総理大臣官房調査室

合同人的インテリジェンス機関内の緊張—ムサシ機関

シグント施設へのアクセスー顕著な双務主義

米国による日本を操るための情報共有ー1983年の大韓航空撃墜事件

米国による日本の育成と監視のためのインテリジェンス支援？

おわりに